

韓国高校生訪日団（第3団）招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】日韓関係の改善を基盤とした訪日プログラムの一環として、韓国全土から選抜された韓国の高校生等を招へいし、講義聴講、学校訪問、テーマ「先端技術を専攻する高校生交流（ロボット工学学習者編）」に沿った各種視察等を通じて、日本に対する理解を深めると共に、韓国でまだあまり知られていない日本の新たな魅力を発信することで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】韓国の高校生等 50 名

【訪問地】訪日（東京都 50 名、鹿児島県 50 名、福岡県 50 名）

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

8 月 29 日（木曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

9 月 22 日（日曜日）成田国際空港から入国、来日時オリエンテーション

【講義】「最近の日韓関係について」

9 月 23 日（月曜日）【視察】日本科学未来館、そなエリア

【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク

9 月 24 日（火曜日）鹿児島県へ移動

【学校訪問・交流】鹿児島情報高等学校

9 月 25 日（水曜日）【視察】沈寿官窯

【講義】第 15 代 沈壽官「陶房雑話」

【自治体訪問】鹿児島県庁

【講義】鹿児島県庁「鹿児島県と韓国の繋がり、鹿児島県の魅力等」

9 月 26 日（木曜日）【視察】鹿児島市立科学館、鹿児島維新ふるさと館

【交流】ホームステイ対面式

9 月 27 日（金曜日）ホームステイ解散式、福岡県へ移動、成果報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

9 月 28 日（土曜日）福岡国際空港から出国

2. 記録写真

	
2024 年 9 月 22 日【講義】「最近の日韓関係について」	2024 年 9 月 23 日【視察】国立科学未来館
	
2024 年 9 月 23 日【視察】そなエリア	2024 年 9 月 24 日【学校訪問・交流】鹿児島情報高等学校
	
2024 年 9 月 25 日【講義】「陶房雑話」	2024 年 9 月 25 日【講義】鹿児島県庁「鹿児島県と韓国の繋がり、鹿児島県の魅力等」
	
2024 年 9 月 26 日【視察】鹿児島市立科学館	2024 年 9 月 27 日【交流】ホームステイ解散式

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 高校生

今まで触れてこなかった「日本」という新しい文化の中に入り、日本人の方と共に生活をしたことで、日本の皆さんについてより深く理解することができた。特に相手が見えなくなるまで、手を振って見送ってくれる姿に、日本人の温かさを感じた。

◆ 韓国 高校生

日本については本や教科書でしか触れたことがなかったのだが、ホームステイや学校訪問、各種視察を通じて、日本を自分の肌で感じることができ、今回の訪日が日本や日本文化を理解するきっかけになった。お互いの文化を理解し尊重することの重要さに気づけたので、今回の訪日で出会った人たちとの交流を続けながら、日韓関係改善のために自分のできることから取り組んでいきたい。

◆ 韓国 高校生

日本に来る前は、日韓両国の国民はお互いに好感を持っておらず、日本人に対してもあまり良い印象を持っていなかったのだが、ホームステイを通じて、日本の人々は思っているよりも優しく礼儀を重要視しており、韓国の文化にも興味を持ってくれていることがわかった。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講義講師

講義では日本と韓国は自然的・歴史的背景が異なるため、社会のあり方などが違うという話をした。日本と韓国は隣国で非常によく似た文化を持っており、それは自分自身が過ごしている社会と同じと勘違いするほどに似ている。それだけに違いを意識することが必要なものであり、異なることを楽しみ、その違いがどこから来るか、相手側の社会の立場から考えられるようになると素晴らしいと思う。

◆ 鹿児島市ホームステイ受け入れ家庭

1泊2日という短い滞在だったため、あっという間にお別れとなり、もう少し学生たちと一緒に時間を過ごしたかった。私たちにとっては何気ない日常の風景にも感動してくれ、皆さんの素直さに驚いた。言葉の壁はあったが、気持ちで通じあうことができたと思う。また是非訪問してほしい。

◆ 鹿児島情報高等学校関係者

本校生徒と韓国の学生が初めて会ってうまくコミュニケーションを取れるか心配していたが、会った瞬間からお互いに積極的に話しかけてコミュニケーションを取っていたことに驚いた。本交流の目的である、日韓の若者が相互理解を深めることで、両国が抱える多くの課題が解決することを期待するとともに、関係強化につながることを願っている。

◆ 鹿児島情報高等学校関係者（生徒）

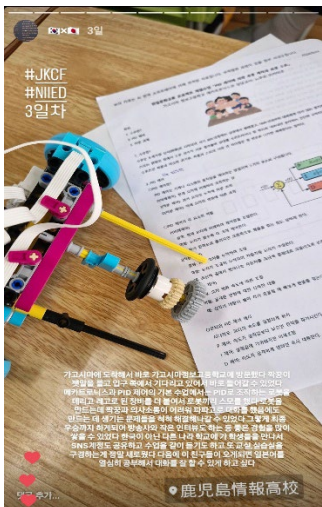
この交流で印象に残っていることは、韓国の生徒たちの人柄だ。連日ニュースで見かける様々な問題はなかなか解決には至らず浮上してくる。そのため韓国の人々は皆、反日感情を持っているの

だと思い込んでいた。しかし今回の交流で韓国の生徒と話す度にそのイメージが払拭していった。日韓の生徒が笑顔で交流していて、人的交流を通じて国交は良くなっていくのではないかと思います。

◆ 鹿児島情報高等学校関係者（生徒）

実際に韓国の高校生たちと体験授業などを行い、言葉や文化が違って好きなことや興味を持っていることを一緒にやっていると、心が通じ楽しむことができることがわかった。実際にバディと共にカメラ実習を行った際に、きれいな写真を一緒に撮っていたら言葉が通じなかったのに笑い合えることができた。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2024 年 9 月 24 日（Instagram） 鹿児島に到着してすぐ、鹿児島情報高等学校を訪問した。メカトロニクス科にて PID 制御を学ぶ授業では、バディとの意思疎通が難しかったが、翻訳機を使いながら様々な問題を解決していった。韓国ではない他の国の学校を訪問し、生徒たちと SNS も交換し、一緒に授業体験や校内を見学できたことが新鮮だった。今度は彼らが私の学校を訪問するため、日本語を勉強し会話できるようにしたい。	2024 年 9 月 26 日（Instagram） 鹿児島市立科学館に移動し、地球科学や宇宙科学についての展示を見ながら、日本が科学技術的で大きく発展したことを知った。また災害が多く発生する地域のため、地震・台風体験などができる施設が様々設けられていたことも記憶に残っている。

先端技術学ぶ韓国高校生 鹿児島情報高校の生徒と交流

2024年9月24日 19:54



2024 年 9 月 24 日（鹿児島読売テレビ）

「先端技術学ぶ韓国高校生 鹿児島情報高校の生徒と交流」韓国で先端技術を学ぶ高校生が、日韓両国について理解を深め関心を高めることを目的に鹿児島県情報高等学校を訪問。授業体験では日韓の学生がペアを組み、カメラで撮った画像をパソコンで編集した様子などを紹介。

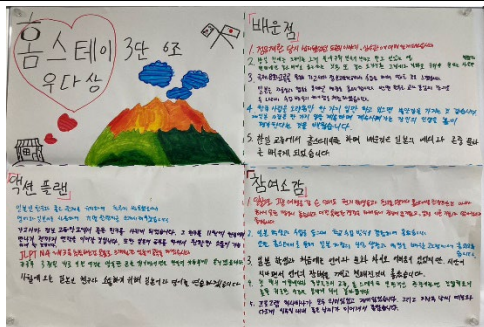
ロボットやシステム開発を学ぶ韓国の高校生が鹿児島市の高校で体験授業



2024 年 9 月 24 日（南日本放送）

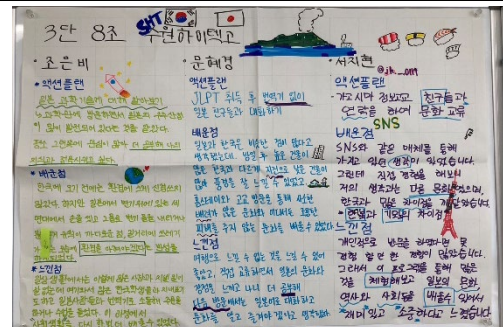
「ロボットやシステム開発を学ぶ韓国の高校生が鹿児島市の高校で体験授業」ロボットやシステム開発などを学ぶ韓国の高校生たちが、鹿児島情報高等学校を訪問し、情報システム科や自動車工学科など 4 つの学科で体験授業を行った様子などを紹介。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）



【成果の発表】

- ・日本に来る前は、地震は時々起こるものだと思っていたが、そなエリアの視察を通して、日本では地震が頻繁に起こっており、桜島の火山活動も活発に起こっていることを知った。また、日本の建物は、地震の被害が少なくなるように設計されていることも学んだ。
- ・日本に来る前は環境について気にしたことがなかったが、日本のトイレには上についている手洗い場で手を洗いその水で汚物を流したり、ごみの分別が細かく決められていること、道にゴミが落ちていない様子を目の当たりにし、環境に配慮しなければならないと反省した。



【成果の発表】

- ・日本とは似ている部分が多いと思っていたのだが、高層ビルの多い韓国と異なり、地震発生を考慮して作られた建物が多く、そのおかげで日本の美しい風景を見ることができた。またホームステイや学校訪問を通じ、細やかな気遣いの多い文化や、どこに行っても静かで人に迷惑をかけることを嫌う文化について学ぶことができた。
- ・訪日前にメディアやSNSのような各種媒体を通して見ていた日本と実際に自分の肌で感じた日本は異なり、韓国と似ている部分も多いが違いについても肌で感じる事ができた。

【アクション・プラン】 ・ 科学館を訪問し日本の宇宙産業が非常に発展していることを知ったため、日本の科学技術について調べる ・ 今回の訪日団のアニメを作り、YouTube にアップロードする ・ 日本で出会った人々と、SNS などを通じて継続して交流を続けていく ・ 日本語を勉強し、日本人と会話できるようになる	【アクション・プラン】 ・ 鹿児島情報高等学校やホームステイで出会った人たちと持続的に連絡を取り交流を続けていく。 ・ 日本留学に向けて、日本語を勉強する。 ・ 家族や友達に日本で学んだことを共有し、誤解していることがあれば事実を伝える。 ・ 日本語を学び、JLPT 試験に挑む。 ・ 一日に日本語会話表現を 3 つずつ覚える ・ 日本文化について学ぶ
--	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金